



# 日本自動車殿堂 歴史車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し  
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

## スバル360 SUBARU360



自動車が出現したとき、それらを愛用したのは欧米の富裕な貴族階級であった。当然、馬車に匹敵するサイズから始まった後に自動車の小型化が考えられた。しかし、日本のファミリーカーの始まりは小型の自動車からであった。これまで自家用車を持つことなど思いもよらなかった庶民に、これなら自分たちの手にも届くと希望を持たせたのがこのスバル360であった。

この時代の軽の規格は長さ3mに幅1.3m、排気量360cc以下エンジンであり、定められた空間に大人4人を乗せて、しかも非力なエンジンで快適に走ることが課題であった。この難題に取り組み、軽量な車体や優れたサスペンションなどで実現したのがスバル360であった。この車の普及から、日本の乗用車は経済の高度成長に合わせて、上級車移行というパターンが形成されていった。いわば日本での乗用車の普及は、この車を原点として発展したともいえる記念すべき車である。

## スバル360



仕		様	
●寸法・重量		●燃料・潤滑油タンク	
全長	2,996mm	燃料タンク容量	18ℓ
全巾	1,300mm	潤滑油タンク容量	2.5ℓ
全高	1,360mm	●伝導装置	
ホイールベース	1,800mm	クラッチ形式	乾燥単板式
トレッド(前)	1,140mm	変速機形式	前進3段・後進1段
“(後)”	1,060mm		3速・2速 同期噛合式
ロードクリアランス	170mm		1速・後進 選択摺動式
車両重量	397kg<402>	変速比(1速)	3.106
車両総重量	617kg<622>	“(2速)”	1.590
乗車定員	4名	“(3速)”	1.000
●性能		“(後進)”	3.624
最高速度	100km/h<105km/h>	第1減速歯車	ヘリカルギヤ
燃料消費率	28km/ℓ	減速比	1.605
登坂能力	sinθ=0.30(17.5°)	最終減速歯車	ヘリカルギヤ
制動距離	14m(50km/h)	減速比	3.421
最小回転半径	4m	●操縦装置	
●エンジン		歯車形式	ラックピニオン式
型式	強制空冷2サイクル直列2気筒	減速比	20.6
内径×行程	61.5×60mm	●懸架装置	
総排気量	356cc	前車軸型式	トレーリングアーム式独立懸架
圧縮比	6.5	後車軸型式	スイングアックスル式独立懸架
最高出力	20PS/5,000rpm	前スプリング型式	トーションバーとコイルスプリング
最大トルク	3.2kg-m/3,000rpm		併用(オイルダンパ付)
点火時期	上死点前13°	後スプリング型式	トーションバー(オイルダンパ付)
気化器	横向往風式	タイヤ	4.80-10-2P
●電気装置		●ブレーキ	
バッテリー	12V-28AH	足ブレーキ	油圧式4輪制動
DCゼネレーター	12V-150W	手ブレーキ	機械式後2輪制動
スターター	12V-0.6KW	●ボディー型式	
			プラットフォーム型フレームレス方式

( < > 内はデラックス、スーパーデラックスの重量)  
( < > 内はオーバートップ付の性能です。)

(この仕様はお断りなく変更することがあります)

(スペックデータは後期型)